

セクション1では接戦となったRH3クラスは、後藤章文/河嶋康史組がラリー後半で突き放して前戦に続き、連勝を果たした。



## 後藤章文デミオ、勝負のロングSSを制して2連勝!

**全**7戦が組まれるJAF九州ラリー選手権は、ラス前の一戦となるEAST九州が10月の第1週に開催された。

RC大分主催のEAST九州と言えば、全日本ラリー2輪駆動階門時代から、クラブの本拠地である大分県東部の白杵市等を拠点とするラリーが多かったが、2018年から県南部の豊後大野市にHQ及びサービスを置く形となっている。

路面はオール舗装で、今回のラリーは総距離130kmの中に、計約31kmの6本のSSが用

意される形だ。5日土曜午後にレッキを行い、6日日曜朝8:30にスタート。夕方にはゴールする2DAYラリーとなった。

7台が参加したRH1クラスは、1番ゼッケンの松尾薫/平原慎太郎組が4.24kmのSS1で後続を2秒以上も引き離すベストタイムを奪ってまずはラリーリーダーに立つ。松尾組はその後ベスト、セカンドベストと首位をキープするが、SS4でリタイヤとなってしまい、同じGDBインプレッサに乗る城戸新一郎/橋口由衣組が代ってトップに立ち、セクション1を終えた。

セクション2は、8.08kmのロングSSを2度走るという設定。1本めのSS5で2番手の藤本大典/岡崎辰雄組に0.8秒競り勝ってベストを奪った城戸組は、最終のSS6はサードベストに終わるも、マージンを守り切って藤本組を5秒差で振り切って第4戦から3連勝を飾った。

「去年はこのラリー出ていないので初めて走る道でしたが、滑りやすくて特に外側の砂に乗ってしまうとリスキーだったので、SS2から走り方を変えて、ラインもイン→インにするようノートも変えました。ロングSSはともかく集中



1.舗装のドライでは、何とかスイフトを抜えるようになってきたと思うので、今後の課題はウェットですね。RH2クラスは昨年から33スイフトターボに乗り換えた黒原康仁/福井林賢組が快勝した。2.常慶明秀/梶山剛組はRH1で4位獲得。3. RH2の4位は吉岡智之/川野想一郎組のミラージュ。4. RH5の4位は白土辰美/津野裕宣組。5. 今村俊之/岩尾竜太郎組はRH2で2位入賞。6. RH3で2位の山之内一真/川原愛組。





7. RH1で2位入賞の藤本大典/岡崎辰雄組。8.フィットCVTで走った徳尾慶太郎/高橋健司組はRH5で2位入賞。9. マーチニスモSを駆った二宮通弘/川津舞紗組は0.3秒及ばず、2位。10. CH1クラスの2位に入賞の馬場潤一郎/藤口裕介組。11. 勝負所でベストを奪った城戸新一郎/橋口由衣組がRH1を制す。12. 有力ドライバーが多数参戦のRH5は中西昌人/竹尾真理華組が快勝した。13. CH1は群を抜く速さを見せた江藤享平/大西慧組が快勝。14. 大激戦となったRH4は川中天兵/土谷英治組が優勝をさらった。15. CH1の3位には近藤真章/林大河組が入賞。16. RH2の3位もレビンの井口和彦/市山智博組が入賞。17. RH5の3位は河本拓哉/樹谷知彦組ヴィッツ。18. OPクラスは山内英一郎/内藤通孝組が優勝した。19. RH1の3位には福本浩人/西高志組が入った。20. CH1表彰の各選手。21. RH1表彰の各選手。22. RH2表彰の各選手。23. RH3表彰の各選手。24. RH4表彰の各選手。25. RH5表彰の各選手。

して走りまし」と城戸選手。3連勝でシリーズも俄然、優位かと思いきや、病気療養のため、前半戦は欠場したため、タイトルは最終戦の結果次第となった。

「長く休んでた分、いまは走れるだけで嬉しいんですよ。今回のラリーも最後までキツかったですけど、切球琢磨できて楽しめました」と城戸選手は最後にラリーを振り返った。

一方、RH3クラスは、参加した3台がセクション1で互いにベストを奪い合う大接戦となったが、後半のロングSSで引き離した後藤章文/河嶋康史組が優勝した。前戦に続いて連勝を飾った後藤選手は、

「シリーズリーダーの前田選手が出ていなかったんで、ちょっと気落ちしたんですけど、SS2

で負けて「このままじゃヤバイ」と気合を入れ直したのが、結果的には良かったと思います。最後の2本は、完走ペースよりはちょっと上ぐらいのペースでしたけど、自分にとっては今季初めてのドライのラリーだったので、踏めて楽しかったです」とターマックを存分に満喫した様子だった。

RH3クラス同様、シーソーゲームとなったRH4クラスでは、ヴィッツを駆る川中天兵/土谷英治組が最終SSで激走を見せ、0.3秒という僅差で逆転優勝をさらっている。またRH2クラスでは昨年の全日本ツール・ド九州で速さを見せた黒原康仁/福井林賢組スイフトが、RH5クラスでは全日本ドラの中西昌人/竹尾

真理華組のRX8が、それぞれ貫禄を見せて快勝した。

入門クラスであるチャレンジ部門では、HT81Sスイフトをドライブした社会人1年生の22歳、江藤享平/大西慧組が全SSでベストを奪う快走で優勝した。ラリーはまだ2戦めという江藤選手は、「ひたすら一生懸命、最後まで気を抜かず走ったら結果がついてきました。安全に速く走るためのヒントがちよっと掴めた気がします。ただ今日はギア比がコースに合ってたのも事実なんで、クルマが不利な時にどう走らせるか、が課題ですね」とひとこと。2WD総合でも4番手に食い込むタイムを残したその速さは、今後、注目を集めそうだ。